

第 14 回講義

- マクスウェルによってあらゆる電磁気現象を説明できる一組の方程式、マクスウェルの方程式が完成された。

$$\nabla \cdot \mathbf{D} = \underline{\hspace{10em}}$$

$$\nabla \cdot \mathbf{B} = \underline{\hspace{10em}}$$

$$\nabla \times \mathbf{E} = \underline{\hspace{10em}}$$

$$\nabla \times \mathbf{H} = \underline{\hspace{10em}}$$

- 電束電流の存在ははじめ懐疑的に迎えられたが、マクスウェルは「マクスウェル方程式が正しいければこの方程式は\_\_\_\_\_解を持つ」ことを示す。
- 真空中( $\rho = \mathbf{J} = 0$ )でマクスウェル方程式を変形すると、\_\_\_\_\_という「波動方程式」を得る。
- 「電磁波」の速度を知られている物性値から計算すると\_\_\_\_\_m/s で、これは当時正体が謎だった\_\_\_\_\_の速度と一致した。ここから光の正体が明らかになり、同時にマクスウェル方程式の正しさが証明された。
- 波動方程式には無数の解があるが、最も単純な「平面波解」は以下の表式を持つ。

\_\_\_\_\_

- 電磁波には以下の性質がある。
  - (ア)電場と磁場は\_\_\_\_\_し、進行方向に\_\_\_\_\_な面内で振動する。
  - (イ)電場と磁場の大きさの比率は\_\_\_\_\_で与えられ、これを「特性インピーダンス」と呼ぶ。
  - (ウ)真空を進む平面波が単位面積当たり運ぶパワーは  $I = \underline{\hspace{10em}}$  で、

これは電磁波の電場エネルギーと磁場エネルギーの和に光速  $c$  を掛けて得る。